

(2) 東北



東北地域では、景気は東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

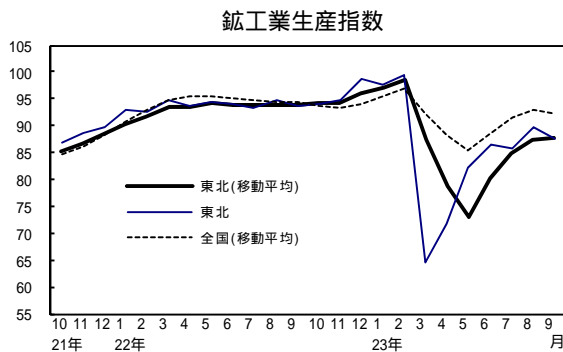
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 8 月)	今回 (平成 23 年 11 月)	
鉱工業生産	東日本大震災の影響が依然として大きいものの、持ち直し	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	
個人消費	持ち直し	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。

電子部品・デバイスは、円高による影響から海外メーカーとの競争が厳しくなったため、減少している。食料品・たばこは、東日本大震災の影響から食品加工業が立ち直りつつあることなどから、増加している。一般機械は、新興国の需要減少に伴い生産を抑えたことなどから、減少している。情報通信機械は、カーナビゲーションシステムの生産が震災時に比べて回復してきたことなどから、増加している。化学工業は、東日本大震災からの復旧が次第に進んできたことなどから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	17.9	6.8	3.9	10.7	9.6
食料品・たばこ	11.8	15.4	7.4	12.8	25.5
一般機械	10.1	7.0	2.0	2.9	0.0
情報通信機械	9.6	9.1	3.7	0.9	8.9
化学	7.0	4.4	16.7	14.2	15.3
鉱工業	100.0	8.1	9.2	9.3	7.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

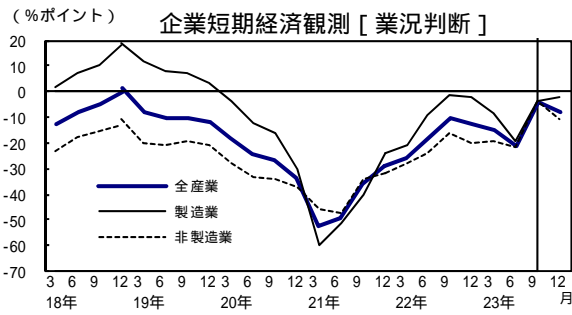
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

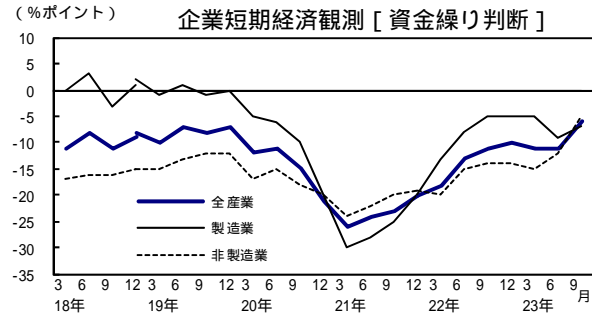
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

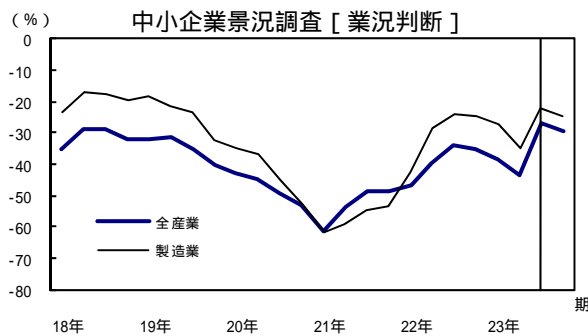
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

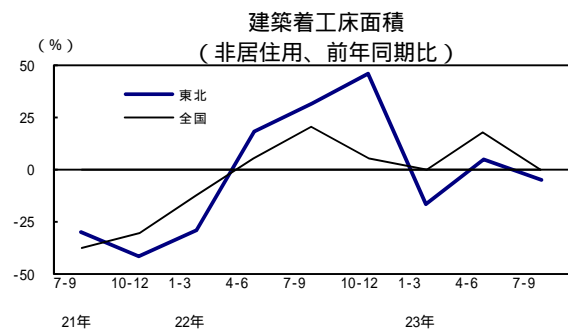
「自動車部品については下期各社の増産計画に基づき需給量を増やしているが、円高の定着により、輸出環境は更に悪化した状態となっている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	15.1	16.0 (4.3)
製造業	16.7	21.3 (5.6)
非製造業	12.0	5.9 (1.7)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。



四半期

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

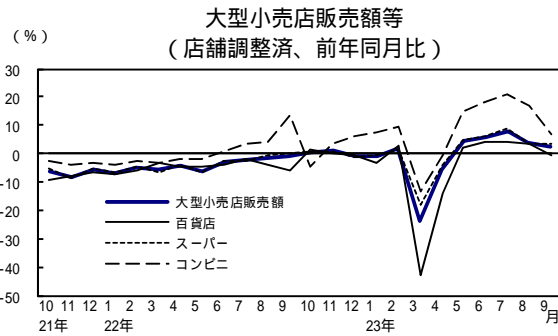
大型小売店販売額は、前年同期比で4.9%増、前期比で4.6%増となった。

百貨店は、7月は、生鮮食料品、総菜が好調だった他、エアコンなども好調だったことから、前年を上回った。8月は、ギフト需要が好調だったことなどから、前年を上回った。9月は、身の回り品のハンドバッグが好調の他、家庭用品では食器が好調で前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品では、生鮮食料品などが好調で前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「3か月前と同様に低調であり、大きな変化はない。復興需要とは関係の無い一般の観光客も動き始めてはいるが、全体的な量としては少ない(観光型旅館)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	0.2	7.6	1.6	4.9
百貨店(*1)	0.3	16.0	2.7	2.5
スーパー(*1)	0.2	5.4	2.6	5.4
大型小売店(*2)	0.0	7.6	1.0	2.7
(季節調整値)(*3)	(1.3)	(7.8)	(7.0)	(4.6)
乗用車(*4)	26.3	33.3	19.6	7.8
(季節調整値)(*4)	(29.7)	(5.4)	(13.0)	(20.8)

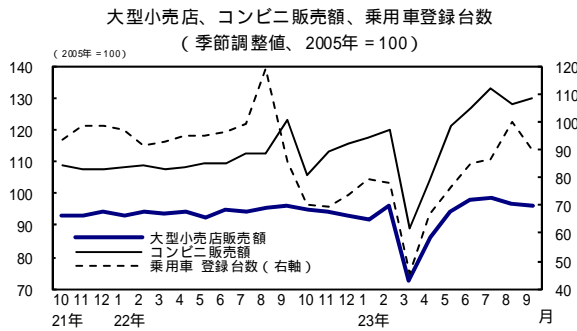
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

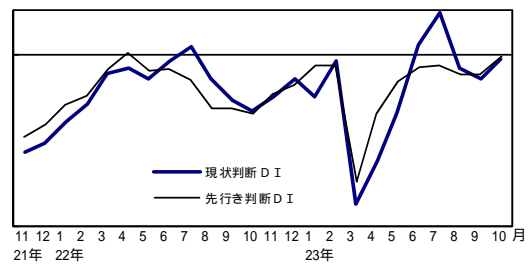
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



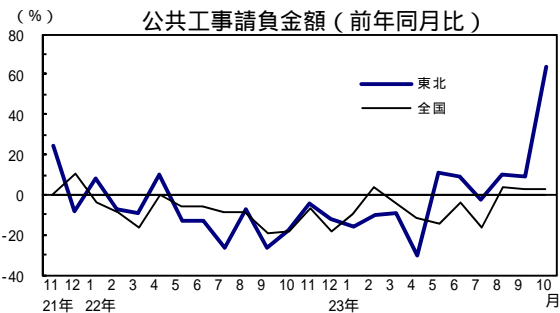
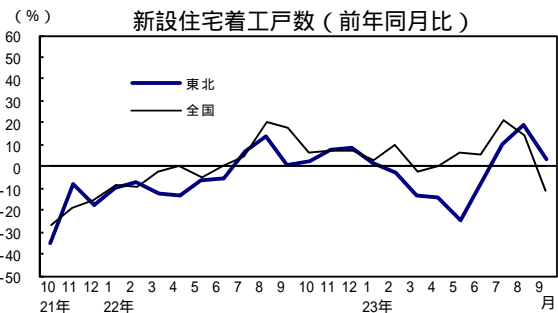
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

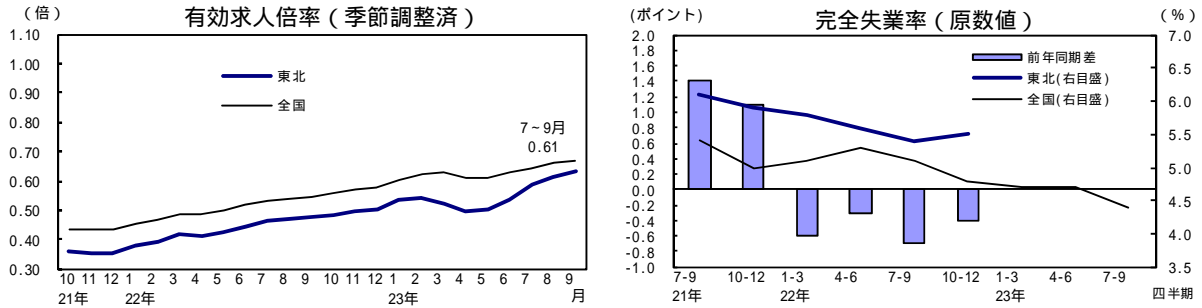
(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。



(備考) 23年1 - 3月期以降の東北地域の完全失業率のデータは未公表。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

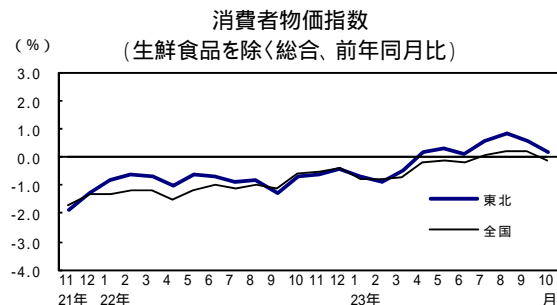
「東日本大震災後の復興関係もあることから、やや回復傾向にあり、6月と比べると求人数が増加している。ただし、製造業でも増えているのは派遣社員の求人であるため、一時的な動きではないかとしている(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数 (前年比)	194 4.0	157 14.7	156 13.3	160 11.6	45 23.7
負債総額 (前年比)	583 30.3	581 40.1	342 14.0	741 35.9	179 94.0



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・当地は震災復興の拠点であることから、人の流れが絶えず、震災前よりも活気に満ちている(高級レストラン)

<先行き>

・年末年始のセールスの時期を迎えるが、必要以外の買物が増える状況にはならない(衣料品専門店)

